【事例紹介】

島根大学留学生と地域との交流

-その 10 年間の取り組みと成果-

Exchanges with Shimane University International Students and the Community: The Initiative over the Past 10 Years and its Results

島根大学国際交流センター特任助教　**キャサリン・シンプソン**

SIMPSON Katherine

(Center for International Exchanges, Shimane University)

キーワード：国際交流、地域活性化、縁結びプロジェクト、邑南町、地域

１．はじめに

昨年、国立大学法人島根大学は、「しまねの里山と世界をつなぐ縁結びプロジェクト in 邑南町（おおなんちょう）」のスタートから 10 年目の節目を迎えた。地域住民との交流を目的としたこの研修は、本学の留学生にとって日本の田舎に暮らす住民と直接交流ができ、日本の昔ながらの文化・伝統・価値観を学ぶかけがえのない機会となっている。また、邑南町の住民にとっても、このプロジェクトは外国人留学生と実際に触れ合うことで、これまで知らなかった国やその文化・考え方などを知ることができる貴重な場となっている。

このプロジェクトが始まって以降、これまで本学留学生と邑南町の住民はさまざまな体験を通し、それぞれ既存の考え方や価値観に互いに影響を与え合ってきた。実際、この 10 年間で邑南町の住民は外国人に対する抵抗感がなくなり、本学留学生も日本の文化や伝統を学びながら日本語のスキルを向上させてきた。とくに、本研修までまったく日本語が話せなかった留学生でさえ、研修終了後には基本的な挨拶や身振りを交えたコミュニケーションが自信を持って行えるようになり、その姿には毎年目を見張るものがある。

これまで研修では、さまざまな体験ができるよう、福祉、森林環境保全、地域史（久喜・大林銀山遺跡）などの交流テーマを設定してきた。しかし、必ず毎回研修に組み入れているのが、郷土料理体験、地元神楽団との演劇を通じた交流、小学校訪問、そして邑南町の民家に宿泊する農家民泊である。こうした体験を通じ、留学生と地元住民との間に自然と会話が生まれ、絆が深まっていく。日本語で

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

のやりとりが難しい場合は、本学スタッフが通訳もするが、基本的には留学生と住民との直接の会話に重きを置いている。

こうしてこの 10 年、本学留学生は邑南町という地域で古き良き日本を肌で感じながら住民との親睦を深め、邑南町もまた本プロジェクトによって地域全体が活性化してきた。

２．邑南町について

島根県邑智郡邑南町は、2004 年 10 月に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の 3 つの町村の合併により誕生した、面積 419.29 平方 km、人口 10,629 人（2019 年 8 月 31 日現在）の山あいの町である。人々は豊かな自然と歴史に育まれた古くからの伝統と、地理的特性を生かした生活文化を受け継いでおり、そこには古き日本の面影と風情が今なお息づいている。また、いわゆる「田舎」と言われる島根県の中山間地域にある邑南町は、人情と活気溢れる山里文化を体験できる貴重な地域でもあり、近年は町をあげての子育て支援、森林資源を活用した教育や人材育成、食を通じた地域からの情報発信などの取り組みを行い、多方面で全国的にも注目を集めている。島根大学とは 2009 年に包括協定を締結し、教育・医療・産業など、さまざまな分野での協働を積極的に推進している。

邑南町は広島県に隣接しているため、外国人観光客が多いというイメージを持つ人もいるが、実情は異なる。地元住民が出会う外国人といえば、政府の JET プログラムで来日する外国人くらいである。JET プログラムでは毎年、海外からの外国語指導助手および国際交流員を全国に派遣し、英語指導や自治体の観光推進の役割を担う人材を育成している。邑南町の場合、20 数年前から外国語指導助手が町に 1～2 人は在住しているが、実際は小・中学校の生徒と交流する仕事がメインであるため、地元住民が普段から外国人と触れ合う機会はほぼないと言ってよい。そのため、本学留学生が邑南町を訪問することは、一般の住民が外国人と触れ合う、まさに絶好の機会となっている。

当縁結びプロジェクトの実施にあたっては、地元の各機関と緊密に連携を行っている。地元の NPO 法人「瑞穂アジア塾」は、1990 年に島根県邑智郡邑南町（旧瑞穂町）で、町内をはじめとした近隣市町の有志によって設立された任意の国際交流団体である。普段は、豊かな自然、農業や福祉、地域活動などを交流の軸にアジアなどの海外から研修生を受け入れているが、当プロジェクトでは本学留学生の民泊コーディネートから各公民館・神楽団との調整、さらには豊富な経験と地域のネットワークを活かした留学生と地域住民との協働企画・運営に至るまで協力を得ている。また、邑南町役場商工観光課は、本学と住民との架け橋となり、ともにプロジェクトを計画している。このように、行政や NPO の多大な助力もあり、本学は当プロジェクトを毎年継続して実施することができている。

３．「しまねの里山と世界をつなぐ縁結びプロジェクト in 邑南町」

このプロジェクトには、「地域を学ぶ」・「地域を体験する」・「地域と交流する」という 3 つの大きな

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

目的がある。「地域を学ぶ」で、本学留学生が邑南町の文化・伝統・歴史などを学び、「地域を体験する」で、留学生と地元の住民が共にさまざまな体験をし、そして「地域と交流する」で、留学生と子供たちを含めた地元住民がコミュニケーションを通して互いの文化や価値観を共有する。

昨年のプロジェクトでは、3 泊 4 日の日程で、くるくる工房、フレッシュ日和（ひわ）、株式会社トリコン、雪田（ゆきた）神楽団、地元農家、そして邑南町立瑞穂小学校の 6 か所を訪問した。

高齢者に木工製作を教わる

まず、「地域を学ぶ」目的で、留学生は地元のくるくる工房を訪れた。この工房は、高齢者が木工細工などの制作を行っている施設である。そこで施設のスタッフは留学生に、面積の 8 割が森林を占める邑南町でどのように木材を活用しているかや、日本の中山間地域が抱える森林問題についての説明を行った。また、その後の木工制作体験では、留学生が電動やすりの使い方を教わりながら、施設のスタッフとともに作品作りも体験した。施設のスタッフは、留学生が作業しやすいようさまざまな形状の木材を用意し、各工程に細かな説明を加えながら留学生の指導を行った。そして工房を後にする際、留学生は手作りのひょうたん型ストラップを土産にもらい、幸運を祈願してもらった。ここでの体験は留学生にとって大変貴重なものとなり、初めて邑南町の住民と言葉を交わすことができた忘れられない場となった。

次に留学生は郷土料理を学ぶため、日和地区に移動した。フレッシュ日和は、日和地区の女性十数名により発足された、郷土料理を学び合うためのグループである。そこでは、グループのメンバーから、留学生それぞれの食習慣や食文化を考慮した 6 種類の料理を企画してもらい、日和産の野菜などを使い全員参加で郷土料理体験を満喫した。また会場では、地域紹介についての動画も流れ、留学生は日和地区の豊かな自然や資源についても理解を深めることができた。

なお、この研修では邑南町の企業についても学ぶ機会が設けられており、昨年の留学生は株式会社トリコンを訪問した。トリコンは、「世界一のまごころをお届けします」という経営理念のもと、砲弾型LEDランプの製造・販売を行う、従業員数 30 名のメーカーである。留学生の訪問に際しては、自社製品の特長や仕組みを説明したほか、英語を交えた会社説明などが行われた。留学生は、日本の田舎を拠点に世界で活躍する企業を目の当たりにし、これまでの田舎についての概念が変わる大きな学びとなった。

名物の押し寿司づくりを教わる

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

「地域を体験する」目的では、毎年、雪田神楽団との交流が企画されている。雪田神楽団は、現在 20～60 代の計 17 名で構成されている神楽団である。この地域で演じられている神楽は、勇壮で躍動感あふれる舞いであることから、各地で見る人を魅了し、その活動は京阪神・東京方面にまで及んでいる。留学生のために披露した「大蛇（おろち）」という演目では、その迫力ある演舞のみならず、一部台詞に英語を取り入れたり、留学生に飛び入り参加させるなど、趣向を凝らしたステージで観客を魅了した。ことに、留学生にとっては、本物の神楽の衣装や鬼面を身に着け、和楽器の演奏を体験できたことは、直接日本の伝統芸能に触れることができた貴重な機会であり、地域を体験するという意味においても、これ以上ない経験となった。

「地域と交流する」目的では、農家民泊（後述）と地元小学校への訪問が恒例行事となっている。毎年、8 校ある邑南町の小学校のうち 1 校を訪問し、子供たちと触れ合い、留学生がそれぞれ自国の紹介を行う。昨年訪問した瑞穂小学校は、瑞穂地区に位置する全校生徒 136 名の公立小学校である。そこで留学生は、自国を紹介するプレゼンテーションや、各国の遊びの紹介・体験を行った。各国のあそびでは、留学生が日本語と英語を使いながら自国の遊びを紹介し、児童もまた日本の遊びを留学生に紹介した。互いに体を動かし交流した後は、ともに教室で給食を食べながら、言葉や年齢の壁を超えた交流を行った。

昨年はこのような活動を通し、本学留学生と地元住民が交流を深めた。このプロジェクトに携わった地元の住民の方々は、みな留学生との交流に前向きで、両者にとって大変有意義な研修となった。また前述の通り、普段から外国語指導助手や国際交流員との交流の機会が少なかった邑南町にとって、この 4 日間はまさに国際色豊かな日々となり、町全体に活気が溢れた。

石見神楽を鑑賞する留学生

地元小学生と会話するシンプソン特任助教

４．中山間地域と外国人留学生を結ぶ利点

農家民泊は、島根県の認可を受けた 19 軒の邑南町の一般農家が、自宅で本学留学生を受け入れ、田舎生活の体験の場を提供するものである。受け入れ先となる農家は家族の一員として留学生を迎え、学生は稲刈りや種まきなどの農作業や、家畜の世話、地域の文化活動などに参加する。当プロジェク

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

トの「地域と交流する」という側面においても、留学生が地元住民の家庭に滞在し、寝食を共にすることが重要であると位置づけているため、研修期間中、留学生は必ず 2 泊 3 日の日程で農家民泊を行うこととなっている。

プロジェクト開始当初は、住民から「日本語が通じなかったら、どうやってコミュニケーションをとれば良いか」という不安の声が多く寄せられた。それに対し本学は、ジェスチャーの活用や、漢字圏からの留学生の場合は漢字を使ったコミュニケーションが有効であると提案してきた。以来、少しずつではあるが、こうしたアドバイスにより、地元住民も積極的にコミュニケーションをとるようになり、はじめは戸惑いを見せていた受け入れ先農家も、今では「楽しみにしている」と口にするまでになった。実際、3 名の留学生を受け入れた農家にその感想を聞いたところ、「留学生が滞在している間は、三人の新しい息子ができたようで、とても楽しかった」と語った。

当然、留学生も民泊の前は言葉に対する不安を抱くのだが、「一日経つ頃には、滞在先の家族と打ち解けることができ、充実した時間を過ごすことができた」と話す学生がほとんどだ。アンケート調査でも、「民泊が研修の中で一番良かった」と回答する留学生が大多数で、中には「お世話になった農家にもう一度会いたい」と、再度民泊プログラムに参加する留学生もいるほどである。

地域交流は、単に交流する双方の思い出作りだけにとどまらない。地域の住民が外国人に対する抵抗感をなくし、外国人への理解を深めることで国際的な視野を広げ、ひいてはそれが地域の活性化へと繋がっていく。また、留学生にとっては、これまで知り得なかった日本の慣習・文化・伝統などを広く体験することができるという点においても、極めて意義深いと言える。

民泊先の家族と留学生

民泊先で稲刈りをする留学生

５．交流から相互理解へ

本学はこれまで、「しまねの里山と世界をつなぐ縁結びプロジェクト in 邑南町」としてさまざまな交流を行ってきた。最初はとても遠い存在だった邑南町住民と外国人留学生が、縁結びプロジェクトを通じ、互いにとても身近で親しい存在となった。そしてその深い絆は、コロナ禍での留学生支援という形にも表れた。新型コロナウイルスの感染が拡大した際、本学の留学生に対し、邑南町の農家か

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

らお米と野菜が寄付として届けられたのだ。米袋には町民の顔写真が貼り付けられており、留学生は安心して受け取ることができた。また、お米を受け取った学生は、感謝のメッセージを送るとともに、その米を使った料理紹介の動画を作成し（https://kokusai.shimane-u.ac.jp/withcorona/komeryori.html）、心からの感謝を伝えた。このように、一つの交流から、また新たな交流が生まれている。

邑南町からの食料支援を受け取る留学生

邑南町民へのお礼メッセージ

６．おわりに

本学と邑南町の関係は深い。ここ数年で協働関係を築き上げ、留学生は普段触れることができない日本の田舎を体験し、地域の方々はさまざまな留学生と交流することでグローカルな邑南町へと変化してきた。筆者である私は、2016 年から 2019 年まで邑南町役場商工観光課の国際交流員として勤務し、留学生を受け入れる側としてこの研修に携わってきた。島根大学の教員として同行した昨年を含めると、4 年にわたり邑南町住民と町そのものの変化を直接目にしてきた訳であるが、この間だけでも地元住民の外国人に対する意識と国際感覚に大きな変化を感じ取ることができた。このプロジェクトを通じ、今後も本学と邑南町の交流が末永く続き、邑南町の更なる国際化に繋がっていくことを切に望んでいる。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.